

中国古典文学大系
18

平凡社

唐代詩集下

前野直彬 編訳

編訳者紹介

まえのなまえ

前野直彬 1920年東京生。東京大学文学部卒。東京大学教授。専攻 中国文学。主著訳書 『唐詩選』(岩波文庫)『唐代伝奇集』1, 2(平凡社「東洋文庫」)『六朝・唐・宋小説選』『宋・元・明・清詩集』『閨微草堂筆記・子不語他』(平凡社「中国古典文学大系」)『唐代の詩人達』(東京堂出版)『風月無尽』(東京大学出版会)

中国古典文学大系 全60巻

唐代詩集(下)

第18巻

1970年6月5日 初版第1刷発行
1984年12月15日 初版第10刷発行

編訳者 前 野 直 彬

東京都千代田区三番町5番地

発行者 下 中 邦 彦

発行所	郵便番号 102 東京都千代田区 三番町5番地 振替・東京8-29639	株式 会社	平 凡 社
-----	---	----------	-------

不良本のお取換えは直接読者サービス係まで 印刷 東洋印刷株式会社
お送り下さい(送料は小社で負担します)。 製本 株式会社 石津製本所
定価は外箱に表示してあります。

© 株式会社 平凡社 1970 Printed in Japan

目次

九
南
僑

陸龜蒙

高李
適賀
三三

三	曾遊の地を通つて	温庭筠
三	長沙の宿場の前の南楼にて昔をしのびながら	柳宗元
三	夏の夜 従兄の家に泊まり 思い出話をしたと	韋實叔
三	咸通のころ	韋實叔
三	懷古	
三	吳中の昔をいたむ	李嘉祐
三	吳城にて昔をしのぶ	陳羽
三	館娃宮の懷古	戎昱
三	雲夢の古城の秋のながめ	皮日休
三	叢台の話を聞いて	李遠
三	古大梁行	高適
三	薊丘の古跡を訪れ盧蔵用居士に贈る	陳子昂
三	洛陽の古城をたずねて	錢起
三	蕭関を出て昔をしのぶ	陶翰
三	宋中にて	高適
三	宋中にて	李商隱
三	茂陵	李賀
三	金銅の仙人が漢を別れる歌	陳子昂
三	白帝城懷古	李賀
三	西塞山懷古	劉禹錫
三	石季倫の金谷園	許堯佐
三	京口にて	陸龜蒙
三	燕城	李端

三	秋 吳公台上の寺に登つて眺望する	劉長卿
三	陳の將軍吳明徹の古戰場である	包氏
三	ふたたび金陵に来て	許渾
三	金陵懷古	羅隱
三	夜 金陵に泊まつて	劉禹錫
三	石頭城	劉禹錫
三	烏衣巷	劉禹錫
三	隋宮	李商隱
三	隋宮	李商隱
三	煬帝の行宮を通つて	楊柳枝詞
三	楊柳枝詞	楊柳枝詞
三	一	
三	二	
三	華清宮	崔櫓
三	一	
三	二	
三	連昌宮の歌	元稹
三	繡嶺宮の歌	王建
三	昔の行宮	王維
三	杜甫の旧宅を通つて	雍陶
三	夜 古戰場を通る	雍陶
三	四時序	
三	正月十五日の夜	蘇味
三	上元	郭利貞

二三	正月十五日	熊羆 くまひ	合 あひ 登 のぼ る	七
二三	正月の晦日に貧乏神を送る	姚合 やうが	合 あひ 登 のぼ る	七
二二	社日 じにち	王駕 わうが	合 あひ 登 のぼ る	七
二二	寒食	韓翃 かんしゆん	合 あひ 登 のぼ る	七
二二	寒食	李山甫 りさんふ	合 あひ 登 のぼ る	七
二二	寒食	羊士谔 やうしやく	合 あひ 登 のぼ る	七
二二	雨の中の寒食	朱灣 しゆわん	合 あひ 登 のぼ る	七
二二	襄陽の寒食の日 宇文籍にあてて	朱灣 しゆわん	合 あひ 登 のぼ る	七
二二	平陵の寓居でまた寒食を迎えて	朱灣 しゆわん	合 あひ 登 のぼ る	七
二二	丙辰の年 鄭州で寒食を迎え 城外で酔いながらうたう	朱灣 しゆわん	合 あひ 登 のぼ る	七
二一	暮春	崔道融 さいどうじゆう	合 あひ 登 のぼ る	七
二三	そぞろにしるす	崔道融 さいどうじゆう	合 あひ 登 のぼ る	七
二三	春のあかつき	孟浩然 もうこうぜん	合 あひ 登 のぼ る	七
二三	春興	武元衡 ぶげんかう	合 あひ 登 のぼ る	七
二三	春日閑居	秦系 しんけい	合 あひ 登 のぼ る	七
二三	春の日の即興	姚合 やうが	合 あひ 登 のぼ る	七
二三	長安の春日	曹松 そうしょう	合 あひ 登 のぼ る	七
二三	江南の春	杜牧 とふく	合 あひ 登 のぼ る	七
二三	行く春を送る	楊衡 やうかう	合 あひ 登 のぼ る	七
二三	三月の晦日 劉評事に贈る	賈島 くわじやう	合 あひ 登 のぼ る	七
二三	初夏	胡宿 こしゆく	合 あひ 登 のぼ る	七
二三	初夏 たわむれにしるす	徐鉉 じゆけん	合 あひ 登 のぼ る	七

二三	端午の日に	殷堯藩 いんぎょうはん	合 あひ 登 のぼ る	七
二三	夏の日 雨に向かつて	裴度 はいど	合 あひ 登 のぼ る	七
二三	池塘の七夕	溫庭筠 うんていしゆん	合 あひ 登 のぼ る	七
二三	秋になつて	李賀 りが	合 あひ 登 のぼ る	七
二三	九日の宴	張諤 ちやうがく	合 あひ 登 のぼ る	七
二三	九月九日	杜牧 とふく	合 あひ 登 のぼ る	七
二三	九月九日 齊山での登高に	李用和 りようわ	合 あひ 登 のぼ る	七
二三	廬陵の九日	耿湋 けいゐ	合 あひ 登 のぼ る	七
二三	秋の日	耿湋 けいゐ	合 あひ 登 のぼ る	七
二三	病中の秋	耿湋 けいゐ	合 あひ 登 のぼ る	七
二三	裴迪の「南門の秋の夜 月に対す」に答えて	雍陶 ゆうたう	合 あひ 登 のぼ る	七
二二	小雪ののち 折にふれて	陸龜蒙 りくきんぼう	合 あひ 登 のぼ る	七
二二	年の終わりに	司空圖 しこうず	合 あひ 登 のぼ る	七
二二	岳州の守歳	張說 ちやうせつ	合 あひ 登 のぼ る	七
二二	除夜	盧仝 ろどう	合 あひ 登 のぼ る	七
二二	除夜	王尚顔 わうしやうがん	合 あひ 登 のぼ る	七
二二	除夜の作	高適 かうてき	合 あひ 登 のぼ る	七
二二	除夜の作	戴叔倫 たいしゆくりん	合 あひ 登 のぼ る	七
二二	除夜 石頭の宿場に泊まって	戴叔倫 たいしゆくりん	合 あひ 登 のぼ る	七
二一	贈 答	李群玉 りぐんぎよ	合 あひ 登 のぼ る	七
二一	人日 杜拾遺にあてて	高適 かうてき	合 あひ 登 のぼ る	七
二一	手紙に代えて 吉十一に寄せる	張說 ちやうせつ	合 あひ 登 のぼ る	七
二一	友にあてて	李群玉 りぐんぎよ	合 あひ 登 のぼ る	七

一 惜 歡

一五 醉うてのちに

一六 春のさなか 王九の來訪を喜ぶ

一七 旧友の莊園をおとずれて

一八 夢得と酒を買って静かに飲み 次の機会を約束して

一九 友人と野外で飲み 陶淵明の詩風にならつて

二〇 余杭の醉歌 吳山人に贈る

二一 湖のほとりで酒を前にしての歌

二二 酒をすすめながら

二三 故郷のわが家に宴を張って

二四 春の園で家族と酒宴を開きながら

二五 郊外の興趣

二六 石魚湖畔の醉歌

二七 飲み屋の中で

一

二

三

二八 酒をうたう

二九 半 醉

三〇 宴が果てて

三一 酔いがさめて

王 建 二六

韓 愈 二七

孟 浩 二七

孟 浩 二八

白 居 易 二八

韋 應 物 二九

丁 仙 芝 二九

張 謂 三〇

徐 贇 三〇

劉 夷 三〇

張 謂 三一

王 勃 三一

元 結 三二

王 績 三二

汪 遵 三三

韓 偓 三三

白 居易 三三

崔 融 三五

七 別 離

三三 上京する李浦との別れに

三三 反乱が平定されてのち 北へと帰る人を送る

三四 友人との別れに

三五 暮春 渚水の岸に人を送って

三六 盤屋泉の鄭礪の屋敷で錢大を送る

三七 雲陽の旅館で韓紳と同宿し また別れるときに

三八 従弟の璩とともに落第したのち 函谷関を出て 別れを告げる

一

二

三九 河朔へと帰る従弟を送る

四〇 邛州へと帰る友人を送る

四一 二兄が蜀へ行くのを送る

四二 李少府が峽中に 王少府が長沙に流されるのを送る

四三 安西へと出張する元二を送る

四四 河源へと出張する盧象昇を送る

四五 胡笳の歌 顔真卿が河隴へと出張するのを送る

三六 火山の雲の歌 送別

三七 芙蓉楼で辛漸を送る

王 昌 齡 三六

王 昌 齡 三六

王 昌 齡 三六

王 昌 齡 三六

王 昌 齡 三六

王 昌 齡 三六

王 昌 齡 三六

王 昌 齡 三六

王 昌 齡 三六

王 昌 齡 三六

王 昌 齡 三六

王 昌 齡 三六

王 昌 齡 三六

王 昌 齡 三六

王 昌 齡 三六

王 昌 齡 三六

王 昌 齡 三六

王 昌 齡 三六

王 昌 齡 三六

王 昌 齡 三六

王 昌 齡 三六

王 昌 齡 三六

王 昌 齡 三六

王 昌 齡 三六

三六	嚴員外を送る	李 ^り 嘉 ^か 祐 ^{ゆう}	三六
三五	蘇州と別れる	劉 ^{りゅう} 禹 ^う 錫 ^{しやく}	三五
三五	臨津の房少府を送る	楊 ^{やう} 燭 ^{しやく}	三五
三五	淮上で友人との別れに	鄭 ^{てい} 谷 ^こ	三五
三五	東陽の酒場にて 別れに贈る	一	三五
二	一	二	二
三五	衡州で李秀才との別れに	方 ^か 干 ^{かん}	三五
三五	謝亭の送別	許 ^こ 渾 ^{こん}	三五
三五	江南へ行く杜十四を送る	孟 ^{もう} 浩 ^{こう} 然 ^{ぜん}	三五
三五	旅人を送る	陳 ^{ちん} 子 ^し 昂 ^{おん}	三五
三五	潭州で杜員外院長への留別	韋 ^{わい} 迢 ^{てう}	三五
三五	従弟の宗一との別れに	柳 ^{りゅう} 宗 ^{そう} 元 ^{げん}	三五
三五	劉昱を送る	李 ^り 頤 ^い	三五
三〇	蜀にて 廬山へと旅だつ人を送る	宋 ^{そう} 之 ^し 隠 ^{いん}	三〇
三〇	弟の之望へ 留別	張 ^{ちやう} 説 ^{せつ}	三〇
三〇	嶺南にて朝廷の使者を送る	送 ^{そう}	三〇
三〇	循州を発とうとし 社日に住んでいた館で 別の宴を開いてくれたときに	裴 ^{はい} 夷 ^い 直 ^{ちく}	三〇
三〇	秋 薛昇華と別れる	王 ^{わう} 勃 ^{はく}	三〇
三〇	国子主簿の張君を送る	包 ^{ほう} 融 ^{じゅう}	三〇
三〇	王永を送る	劉 ^{りゅう} 商 ^{しょう}	三〇
三〇	故山に帰る歌を作り沈四山人を送る	高 ^{かう} 適 ^{しやく}	三〇
三〇	山へ帰る李山人を送って	陸 ^{りく} 暢 ^{ちやう}	三〇
三〇	送 別	王 ^{わう} 維 ^い	三〇
三〇	靈澈上人を送る	劉 ^{りゅう} 長 ^{ちやう} 卿 ^{けい}	三〇

三五	友人が落第して郷里に帰るのを送る	殷 ^{いん} 逋 ^ふ	三五
三五	農村の秋 友を送って	于 ^よ 良 ^{りやう} 史 ^し	三五
三五	三月の晦日に旅だつ人を送って	崔 ^{さい} 櫓 ^ろ	三五
三五	酒をすすめながら	聶 ^{ねつ} 夷 ^い 中 ^{ちゅう}	三五
三五	酒をすすめながら	于 ^よ 武 ^ぶ 陵 ^{りやう}	三五
三五	仏門に入る妻を送って	李 ^り 涉 ^{せつ}	三五
三五	別れに贈る	杜 ^と 牧 ^{ぼく}	三五
二	一	二	二
三五	妻の死後 妻の弟との別れに	戴 ^{たい} 叔 ^{しやく} 倫 ^{りん}	三五
三五	外弟に会って喜び また別れを告げる	李 ^り 益 ^{えき}	三五
三〇	峠で久しく別れていた人に出会い また別れる	于 ^よ 武 ^ぶ 陵 ^{りやう}	三〇
三〇	友人との別れに	權 ^{けん} 德 ^{とく} 興 ^{きやう}	三〇
三〇	留別 杜審言に贈り あわせて洛陽の旧友に贈る	崔 ^{さい} 融 ^{じゅう}	三〇
三〇	別れる人々を見て	王 ^{わう} 維 ^い 融 ^{じゅう}	三〇
三〇	古別離	李 ^り 端 ^{たん}	三〇
三〇	古離別	韋 ^{わい} 莊 ^{じやう}	三〇
三〇	古離別	韋 ^{わい} 貫 ^{くわん} 休 ^{きゅう}	三〇
三〇	折楊柳	楊 ^{やう} 巨 ^こ 源 ^{げん}	三〇
三〇	折柳枝	施 ^し 肩 ^{けん} 吾 ^ご	三〇
三〇	八 遊 覧	盧 ^ろ 綸 ^{りん}	三〇
三〇	長安の春のながめ	盧 ^ろ 綸 ^{りん}	三〇

三六	西塞山のふもとで舟を返したとき作る	陶	温庭	寶	韓	杜	張	獨	劉	王	韓	柳	孟	韋	白	高	張	白	李	馮	太	李	杜	裴	趙
三五	蓮浦	庭	筠	常	愈	牧	旭	孤	滄	續	偃	宗	浩	應	居	蟾	籍	易	華	著	商	隱	牧	直	緞
三三	北固山の夕べの眺め	峴	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
三二	山行	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
三一	はじめて南溪に舟を浮かべて	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
三〇	雨あがりに琴を抱いて馬退山へと登り	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
二九	晩秋の原野を眺めて	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
二八	野の眺め	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
二七	戦乱のち 春の日に野川の堤を通りかかつて	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
二六	洞庭湖の眺望 張丞相に贈る	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
二五	杭州の春のながめ	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
二四	滁州の西澗	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
二三	金陵の夕べの眺め	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
二二	梅溪	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
二一	趙村の杏の花を見に来て	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
二〇	春の道を歩きながら 興趣を託して	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
一九	洛陽道	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
一八	ふたたび武功に幸して	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
一七	楽遊原	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
一六	楽遊原に登る	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
一五	冬の終わりに曲江を散歩して	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
一四	長安の秋の眺め	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	

三六	州の官舎から山川を見わたして	岑	李	劉	崔	皇	王	韋	崔	王	薛	司	基	積	積	韓	王	李	羊	盧	顧	儲	皮	李
三五	秋の暮れ 古城に登る	參	百	長	卿	曙	冉	冉	冉	冉	冉	冉	冉	冉	冉	冉	冉	冉	冉	冉	冉	冉	冉	冉
三三	余干の古い県城に登って	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三二	温丹徒と万歳楼に登る	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三一	樓に登り 王卿にあてて	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三〇	慶宝寺をたずねて	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二九	東嶽寺に泊まり 夜明けに起き出て	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二八	鵲雀楼に登る	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二七	山の石	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二六	香積寺をたずねて	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二五	昭福寺の樓に登って	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二四	舟を浮かべて裏の谷川に漕ぎ入れながら	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二三	湖上にて	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二二	夜 暢当と秋の淵に舟を浮かべて	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二一	巴陵に到着早々 李白・裴九とともに洞庭湖に	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二〇	舟を浮かべて	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一九	江南曲	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一八	胥口の即興	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一七	至	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

九行 旅

三六	上京の途中 雪にあう	孟浩
三七	夕暮れ 華陰に着いて	皇甫
三八	商山の朝発ち	温庭
三九	左遷されて藍関まで来たとき 甥の子の湘に示す	孟浩然
四〇	秦嶺にしろす	韓愈
四一	七盤嶺に泊まった夜	歐陽
四二	日暮れ 山村に立ち寄って	沈佺
四三	鞏洛から船旅に出て黄河に入ったときの即興	賈島
四四	府県の同僚にあてて	韋應
四五	新安郊外の村に泊まり 散歩に出て	朱景
四六	たわむれに関所の門にしろす	岑参
四七	彭門に出兵してのち 汴河を通って	吳融
四八	商於にて友人と逢う	玄宗
四九	朝 蒲津関を越えて	司空
五〇	そぞろにしろす	賈島
五一	桑乾河を渡る	盧綸
五二	日が暮れて鄂州に泊まる	蔣吉
五三	旅の宿りに	常建
五四	西山	皇甫冉
五五	帰途 洛水を渡りながら	皇甫冉
五六	漢江を渡って	李邕
五七	漸上にて	司空図

三 江行無題

一	長江の旅	柳中庸
二	巴江に泊まって	柳中庸
三	嘉陵の宿場にしろす	柳中庸
四	万州を夜明けに発ち 川の増水に乗じて舟を出	柳中庸
五	三峽を出て	陳子昂
六	泥陽の旅館にて	賈島
七	秦淮に泊まって	杜牧
八	北固山のふもとに宿る	王湾
九	瓜州を立つときに	李端
一〇	揚子の渡し場に宿る	祖詠
一一	金陵の渡しにしろす	張祜
一二	楓橋の夜の泊まりに	張祜
一三	蘇台から望亭駅に來たが 人家はみな空家で春	張祜
一四	の風物が物思いを増すばかり 悲しみに沈ん	李嘉祐
一五	でこの詩を作り 従弟の紆に贈る	李嘉祐
一六	戦乱ののち 淮陰の岸を通って	朱放
一七	淮河を渡りながら作る	吳融
一八	毘陵への途中で	唐彦謙

錢起

二九	塞上	郭震	三九
三〇	塞上の曲	王烈	三九
三一	塞下の曲	王昌齡	三〇
三二	塞下の曲	常建	三〇
三三	塞下の曲	積穀然	三〇
三四	塞下の曲	積穀休	三〇
三五	出塞	王昌齡	三一
三六	涼州詞	王翰	三一
三七	涼州詞	王之渙	三三
三八	涼州行	王維	三三
三九	苦寒行	喬知之	三三
四〇	古風にならって	司馬扎	三四
四一	邊地の士卒が帰郷を願う歌	盧綸	三五
四二	遠征の士卒が春をいたむ心を	于頔	三五
四三	李秀才の「辺庭の四時の怨み」に唱和して	盧綸	三五
四四	一		
四五	復員する跛の男	趙徵明	三六
四六	河湟の老兵	張喬	三七
四七	辺塞を旅して帰った友人に会う	薛能	三七

一一	田園		
一二	渭川の農家	王維	三八
一三	農家の生活を見る	章孝標	三八
一四	農家	章孝標	三八
一五	農家の即興	儲光羲	三九
一六	田園の楽しみ	丘為	三九
一七	農夫の小屋にしろす	王維	三九
一八	早春 農夫に出会って	柳宗元	四〇
一九	商山の麻澗	杜牧	四〇
二〇	南山田中行	李賀	四〇
二一	藍田の谷川で漁師と一夜を明かす	錢起	四一
二二	日暮れに漁師の家へ着いて	張籍	四一
二三	漁夫の歌	張志和	四一
二四	一		
二五	老漁夫	柳宗元	四二
二六	田舎おやじの日向ぼっこ	李頎	四二
二七	となりの老人に代わって	寶暉	四二
二八	牧童の歌	儲光羲	四三
二九	老圃堂	曹鄴	四三
三〇	鑑湖の西島の生活を	方干	四三
三一	田舎すまい	沈亞之	四三
三二	田園の住居	張籍	四三
三三	晩秋 田園の住居にて	任翻	四三

四七〇	長安公主の流杯池に遊んで	賀知章	四六	益州へと出発する前 小園の壁にしろす	蘇頌
四六九	永嘉での作	張子容	四六五	郷里に帰ってふと浮かんた詩	賀知章
四六八	このたび香炉峰のふもとに山荘を作り 草堂の落成にあたって 心に浮かぶことを東の壁にしろす	白居易	四六四	海岸の旧居に帰る	章孝標
四六七	州の役宅を白樂天に自慢して	元稹	四六三	夕方 盤屋に着き 故老の家をたずねて	盧綸
四六六	武功の県庁での作	姚合	四六二	山中の住居に帰って	楊師道
四六五	二	二	四六一	寒食の日 陸渾の別荘に帰る	錢起
四六四	一	一	四六〇	晩春 故山の草堂に帰る	張祜
四六三	宮 詞	王建	四五九	晩夏 別荘に帰る	王維
四六二	一二 居 処	一二	四五八	嵩山に帰って	王維
四六一	一	一	四五七	歳の暮れ 南山に帰って	王維
四六〇	二	二	四五六	冬末 陵陽の別荘に帰って	許崇
四五九	三	三	四五五	輞川に帰って	孟浩然
四五八	四	四	四五四	孟城坳	王維
四五七	五	五	四五三	鹿 柴	王維
四五六	六	六	四五二	竹里館	王維
四五五	七	七	四五〇	山中の生活	杜光庭
四五四	八	八	四四九	一	一
四四三	九	九	四四八	二	二
四四二	十	十	四四七	晩春 山荘の即興	盧照隣
四四一	十一	十一	四四六	南荘の春の暮れ	李群玉
四四〇	十二	十二	四四五	山荘の夏	高群玉
四三九	十三	十三	四四四	欠 題	劉春虚
四三八	十四	十四	四四三	晩冬の山荘にて 標上人の来訪を喜んで	黃滔
四三七	十五	十五	四四二	盧処士の家	温庭筠
四三六	十六	十六	四四一	李凝の住居にしろす	賈島
四三五	十七	十七	四四〇	梁氏の水斎	韋莊
四三四	十八	十八	四三九		
四三三	十九	十九	四三八		
四三二	二十	二十	四三七		
四三一	二十一	二十一	四三六		
四三〇	二十二	二十二	四三五		
四二九	二十三	二十三	四三四		
四二八	二十四	二十四	四三三		
四二七	二十五	二十五	四三二		
四二六	二十六	二十六	四三一		
四二五	二十七	二十七	四三〇		
四二四	二十八	二十八	四二九		
四二三	二十九	二十九	四二八		
四二二	三十	三十	四二七		
四二一	三十一	三十一	四二六		
四二〇	三十二	三十二	四二五		
四一九	三十三	三十三	四二四		
四一八	三十四	三十四	四二三		
四一七	三十五	三十五	四二二		
四一六	三十六	三十六	四二一		
四一五	三十七	三十七	四二〇		
四一四	三十八	三十八	四一九		
四一三	三十九	三十九	四一八		
四一二	四十	四十	四一七		
四一一	四十一	四十一	四一六		
四一〇	四十二	四十二	四一五		
四〇九	四十三	四十三	四一四		
四〇八	四十四	四十四	四一三		
四〇七	四十五	四十五	四一二		
四〇六	四十六	四十六	四一一		
四〇五	四十七	四十七	四一〇		
四〇四	四十八	四十八	四〇九		
四〇三	四十九	四十九	四〇八		
四〇二	五十	五十	四〇七		
四〇一	五十一	五十一	四〇六		
四〇〇	五十二	五十二	四〇五		
三九九	五十三	五十三	四〇四		
三九八	五十四	五十四	四〇三		
三九七	五十五	五十五	四〇二		
三九六	五十六	五十六	四〇一		
三九五	五十七	五十七	四〇〇		
三九四	五十八	五十八	三九九		
三九三	五十九	五十九	三九八		
三九二	六十	六十	三九七		
三九一	六十一	六十一	三九六		
三九〇	六十二	六十二	三九五		
三八九	六十三	六十三	三九四		
三八八	六十四	六十四	三九三		
三八七	六十五	六十五	三九二		
三八六	六十六	六十六	三九一		
三八五	六十七	六十七	三九〇		
三八四	六十八	六十八	三八九		
三八三	六十九	六十九	三八八		
三八二	七十	七十	三八七		
三八一	七十一	七十一	三八六		
三八〇	七十二	七十二	三八五		
三七九	七十三	七十三	三八四		
三七八	七十四	七十四	三八三		
三七七	七十五	七十五	三八二		
三七六	七十六	七十六	三八一		
三七五	七十七	七十七	三八〇		
三七四	七十八	七十八	三七九		
三七三	七十九	七十九	三七八		
三七二	八十	八十	三七七		
三七一	八十一	八十一	三七六		
三七〇	八十二	八十二	三七五		
三六九	八十三	八十三	三七四		
三六八	八十四	八十四	三七三		
三六七	八十五	八十五	三七二		
三六六	八十六	八十六	三七一		
三六五	八十七	八十七	三七〇		
三六四	八十八	八十八	三六九		
三六三	八十九	八十九	三六八		
三六二	九十	九十	三六七		
三六一	九十一	九十一	三六六		
三六〇	九十二	九十二	三六五		
三五九	九十三	九十三	三六四		
三五八	九十四	九十四	三六三		
三五七	九十五	九十五	三六二		
三五六	九十六	九十六	三六一		
三五五	九十七	九十七	三六〇		
三五四	九十八	九十八	三五九		
三五三	九十九	九十九	三五八		
三五二	一百	一百	三五七		
三五一	一百〇一	一百〇一	三五六		
三三〇	一百〇二	一百〇二	三五五		
三二九	一百〇三	一百〇三	三五四		
三二八	一百〇四	一百〇四	三五三		
三二七	一百〇五	一百〇五	三五二		
三二六	一百〇六	一百〇六	三五一		
三二五	一百〇七	一百〇七	三三〇		
三二四	一百〇八	一百〇八	三二九		
三二三	一百〇九	一百〇九	三二八		
三二二	一百一十	一百一十	三二七		
三二一	一百一十一	一百一十一	三二六		
三二〇	一百一十二	一百一十二	三二五		
三一九	一百一十三	一百一十三	三二四		
三一八	一百一十四	一百一十四	三二三		
三一七	一百一十五	一百一十五	三二二		
三一六	一百一十六	一百一十六	三二一		
三一五	一百一十七	一百一十七	三二〇		
三一四	一百一十八	一百一十八	三一九		
三一三	一百一十九	一百一十九	三一八		
三一二	一百二十	一百二十	三一七		
三一一	一百二十一	一百二十一	三一六		
三一〇	一百二十二	一百二十二	三一五		
三〇九	一百二十三	一百二十三	三一四		
三〇八	一百二十四	一百二十四	三一三		
三〇七	一百二十五	一百二十五	三一二		
三〇六	一百二十六	一百二十六	三一〇		
三〇五	一百二十七	一百二十七	三〇九		
三〇四	一百二十八	一百二十八	三〇八		
三〇三	一百二十九	一百二十九	三〇七		
三〇二	一百三十	一百三十	三〇六		
三〇一	一百三十一	一百三十一	三〇五		
三〇〇	一百三十二	一百三十二	三〇四		
二九九	一百三十三	一百三十三	三〇三		
二九八	一百三十四	一百三十四	三〇二		
二九七	一百三十五	一百三十五	三〇一		
二九六	一百三十六	一百三十六	三〇〇		
二九五	一百三十七	一百三十七	二九九		
二九四	一百三十八	一百三十八	二九八		
二九三	一百三十九	一百三十九	二九七		
二九二	一百四十	一百四十	二九六		
二九一	一百四十一	一百四十一	二九五		
二九〇	一百四十二	一百四十二	二九四		
二八九	一百四十三	一百四十三	二九三		
二八八	一百四十四	一百四十四	二九二		
二八七	一百四十五	一百四十五	二九一		
二八六	一百四十六	一百四十六	二九〇		
二八五	一百四十七	一百四十七	二八九		
二八四	一百四十八	一百四十八	二八八		
二八三	一百四十九	一百四十九	二八七		
二八二	一百五十	一百五十	二八六		
二八一	一百五十一	一百五十一	二八五		
二八〇	一百五十二	一百五十二	二八四		
二七九	一百五十三	一百五十三	二八三		
二七八	一百五十四	一百五十四	二八二		
二七七	一百五十五	一百五十五	二八一		
二七六	一百五十六	一百五十六	二八〇		
二七五	一百五十七	一百五十七	二七九		
二七四	一百五十八	一百五十八	二七八		
二七三	一百五十九	一百五十九	二七七		
二七二	一百六十	一百六十	二七六		
二七一	一百六十一	一百六十一	二七五		
二七〇	一百六十二	一百六十二	二七四		
二六九	一百六十三	一百六十三	二七三		
二六八	一百六十四	一百六十四	二七二		
二六七	一百六十五	一百六十五	二七一		
二六六	一百六十六	一百六十六	二七〇		
二六五	一百六十七	一百六十七	二六九		
二六四	一百六十八	一百六十八	二六八		
二六三	一百六十九	一百六十九	二六七		
二六二	一百七十	一百七十	二六六		
二六一	一百七十一	一百七十一	二六五		
二六〇	一百七十二	一百七十二	二六四		
二五九	一百七十三	一百七十三	二六三		
二五八	一百七十四	一百七十四	二六二		
二五七	一百七十五	一百七十五	二六一		
二五六	一百七十六	一百七十六	二六〇		
二五五	一百七十七	一百七十七	二五九		
二五四	一百七十八	一百七十八	二五八		
二五三	一百七十九	一百七十九	二五七		
二五二	一百八十	一百八十	二五六		
二五一	一百八十一	一百八十一	二五五		
二五〇	一百八十二	一百八十二	二五四		
二四九	一百八十三	一百八十三	二五三		
二四八	一百八十四	一百八十四	二五二		
二四七	一百八十五	一百八十五	二五一		
二四六	一百八十六	一百八十六	二五〇		
二四五	一百八十七	一百八十七	二四九		
二四四	一百八十八	一百八十八	二四八		
二四三	一百八十九	一百八十九	二四七		
二四二	一百九十	一百九十	二四六		
二四一	一百九十一	一百九十一	二四五		
二四〇	一百九十二	一百九十二	二四四		
二三九	一百九十三	一百九十三	二四三		
二三八	一百九十四	一百九十四	二四二		
二三七	一百九十五	一百九十五	二四一		
二三六	一百九十六	一百九十六	二四〇		
二三五	一百九十七	一百九十七	二三九		
二三四	一百九十八	一百九十八	二三八		
二三三	一百九十九	一百九十九	二三七		
二三二	二百	二百	二三六		
二三一	二百〇一	二百〇一	二三五		
二三〇	二百〇二	二百〇二	二三四		
二二九	二百〇三	二百〇三	二三三		
二二八	二百〇四	二百〇四	二三二		
二二七	二百〇五	二百〇五	二三一		
二二六	二百〇六	二百〇六	二三〇		
二二五	二百〇七	二百〇七	二二九		
二二四	二百〇八	二百〇八	二二八		
二二三	二百〇九	二百〇九	二二七		
二二二	二百一十	二百一十	二二六		
二二一	二百一十一	二百一十一	二二五		
二二〇	二百一十二	二百一十二	二二四		
二一九	二百一十三	二百一十三	二二三		
二一八	二百一十四	二百一十四	二二二		
二一七	二百一十五	二百一十五	二二一		
二一六	二百一十六	二百一十六	二二〇		
二一五	二百一十七	二百一十七	二一九		
二一四	二百一十八	二百一十八	二一八		
二一三	二百一十九	二百一十九	二一七		
二一二	二百二十	二百二十	二一六		
二一一	二百二十一	二百二十一	二一五		
二一〇	二百二十二	二百二十二	二一四		
二〇九	二百二十三	二百二十三	二一三		
二〇八	二百二十四	二百二十四	二一二		
二〇七	二百二十五	二百二十五	二一〇		
二〇六	二百二十六	二百二十六	二〇九		
二〇五	二百二十七	二百二十七	二〇八		
二〇四	二百二十八	二百二十八	二〇七		
二〇三	二百二十九	二百二十九	二〇六		
二〇二	二百三十	二百三十	二〇五		
二〇一	二百三十一	二百三十一	二〇四		
二〇〇	二百三十二	二百三十二	二〇三		
一九九	二百三十三	二百三十三	二〇二		
一九八	二百三十四	二百三十四	二〇一		
一九七	二百三十五	二百三十五	二〇〇		
一九六	二百三十六	二百三十六	一九九		
一九五	二百三十七	二百三十七	一九八		
一九四	二百三十八	二百三十八	一九七		
一九三	二百三十九	二百三十九	一九六		
一九二	二百四十	二百四十	一九五		
一九一	二百四十一	二百四十一	一九四		
一九〇	二百四十二	二百四十二	一九三		
一八九	二百四十三	二百四十三	一九二		
一八八	二百四十四	二百四十四	一九一		
一八七	二百四十五	二百四十五	一九〇		
一八六	二百四十六	二百四十六	一八九		
一八五	二百四十七	二百四十七	一八八		
一八四	二百四十八	二百四十八	一八七		
一八三	二百四十九	二百四十九	一八六		
一八二	二百五十	二百五十	一八五		
一八一	二百五十一	二百五十一	一八四		
一八〇	二百五十二	二百五十二	一八三		
一七九	二百五十三	二百五十三	一八二		
一七八	二百五十四	二百五十四	一八一		
一七七	二百五十五	二百五十五	一八〇		
一七六	二百五十六	二百五十六	一七九		
一七五	二百五十七	二百五十七	一七八		
一七四	二百五十八	二百五十八	一七七		
一七三	二百五十九	二百五十九	一七六		
一七二	二百六十	二百六十	一七五		

四七 雨の夜
四六 川の雪に
四九 春の雪
五〇 新しくできた砂洲
五一 海を望む
五二 引退せぬ人
五三 腕の折れた新豊の老人
五四 炭売りの老人
五五 賈客楽
五六 塩商人の女房
五七 機を織る女
五八 当窓織
五九 髪を結う美人の歌
六〇 橡の実拾いの老婆の嘆き
六一 老僧
六二 日本の病僧
六三 歯がぬけた
六四 涙
六五 湘妃
六六 湘江の女神が瑟をひく
六七 常娥
六八 曉仙謡
六九 神弦曲
七〇 秋の朝 鏡を見て
七一 鄭群が贈ってくれた竹むしろ
七二 歌を聞いて

[illegible]

